

# 初の国産飛行機

我が国初の国産飛行機「会式1号機」はフランス・ファルマン機を参考にして、木製の骨組みと布張りの双翼構造で、プロペラで推進しました。1910年(明治43)に完成し、同年12月19日徳川好敏大尉が我が国初の飛行に成功しました。その後さらなる航空技術の研究と開発が進められ、戦前の日本における航空機産業の成長につながりました。

20世紀シリーズ  
第2集



1999年(平成11)  
9月22日発行



青葉 11



-AKE - IX. 99



岡山・本郷  
11. 11. 2-



東京中央  
12. 5. 16



明石  
10. 9. :-

## 愛国切手・愛国はがき

1929年(昭和4)4月に航空郵便の取り扱いが始まりましたが、諸外国と比べると我が国の航空事業の発達は遅れていました。逓信省は民間飛行場の建設等を助成するために、1937年(昭和12)6月1日、我が国初の寄付金付きの切手とはがきを発行しました。寄付金付き切手3種は、いずれも日本アルプス上空を飛ぶダグラス社のDC-2型機を描く大型切手で、郵便局だけでなく公共団体や学校、寺社でもなかば強制的に販売されました。  
(山口 1985, pp.166-172)



はばたく金鷲を描く2+3銭愛国はがき  
ダグラス DC-2 型機を描く航空愛国週間記念特印  
豊橋 12.6.1

# 愛国切手 2+2 銭



大阪中央  
13. 3. 23



埼玉・久喜  
13. 1. - せいせん園



若松原田間  
13. 4. 26 下



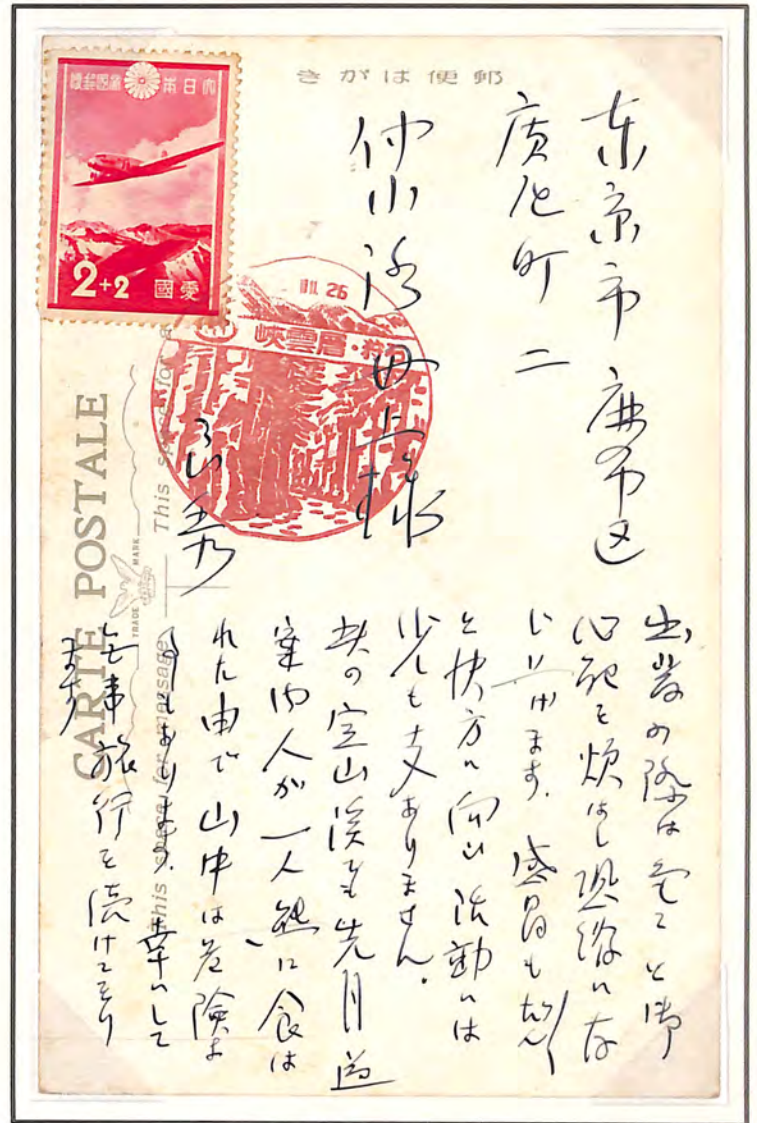
岐阜 12  
「航空日本の建設は  
/愛国切手で」



穿孔  
山一証券

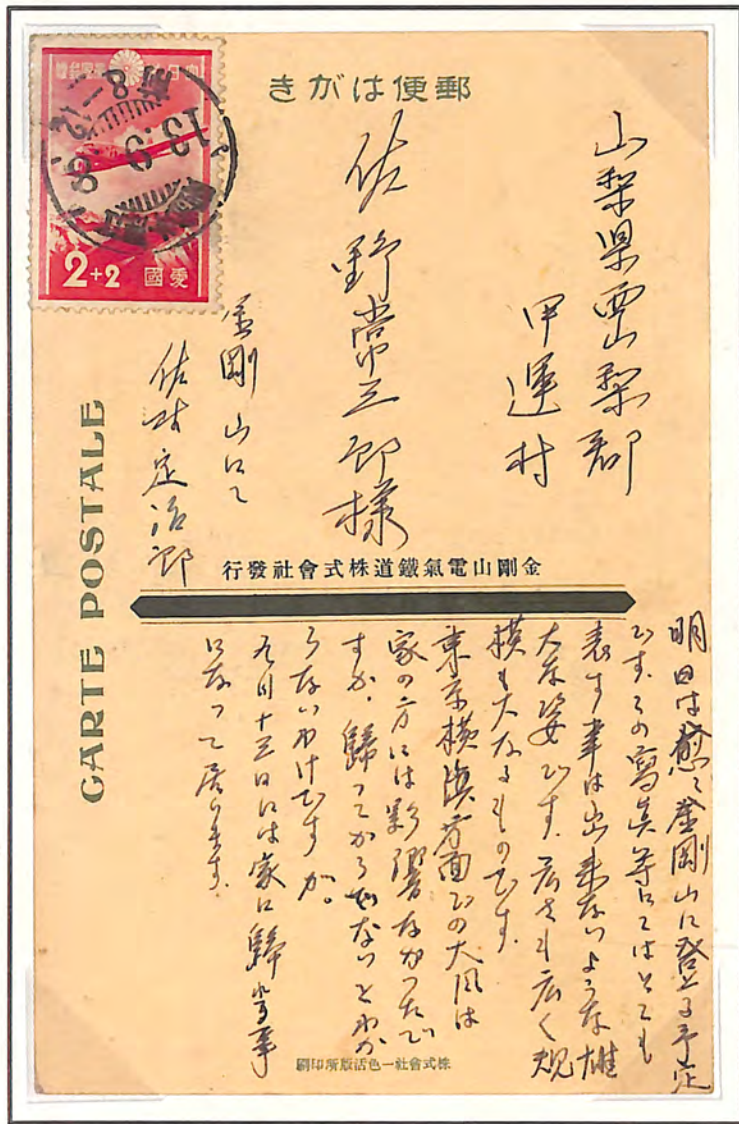


深川 13. 1. 25



石狩・層雲峡(風景印) 1-. 11. 26

# 愛国切手 2+2 銭



江原・外金剛 13. 9. 8 前8-12



台北 13. 6. -



旅順 12. 7. 18



パラオ 14. 1. 21 郵便局

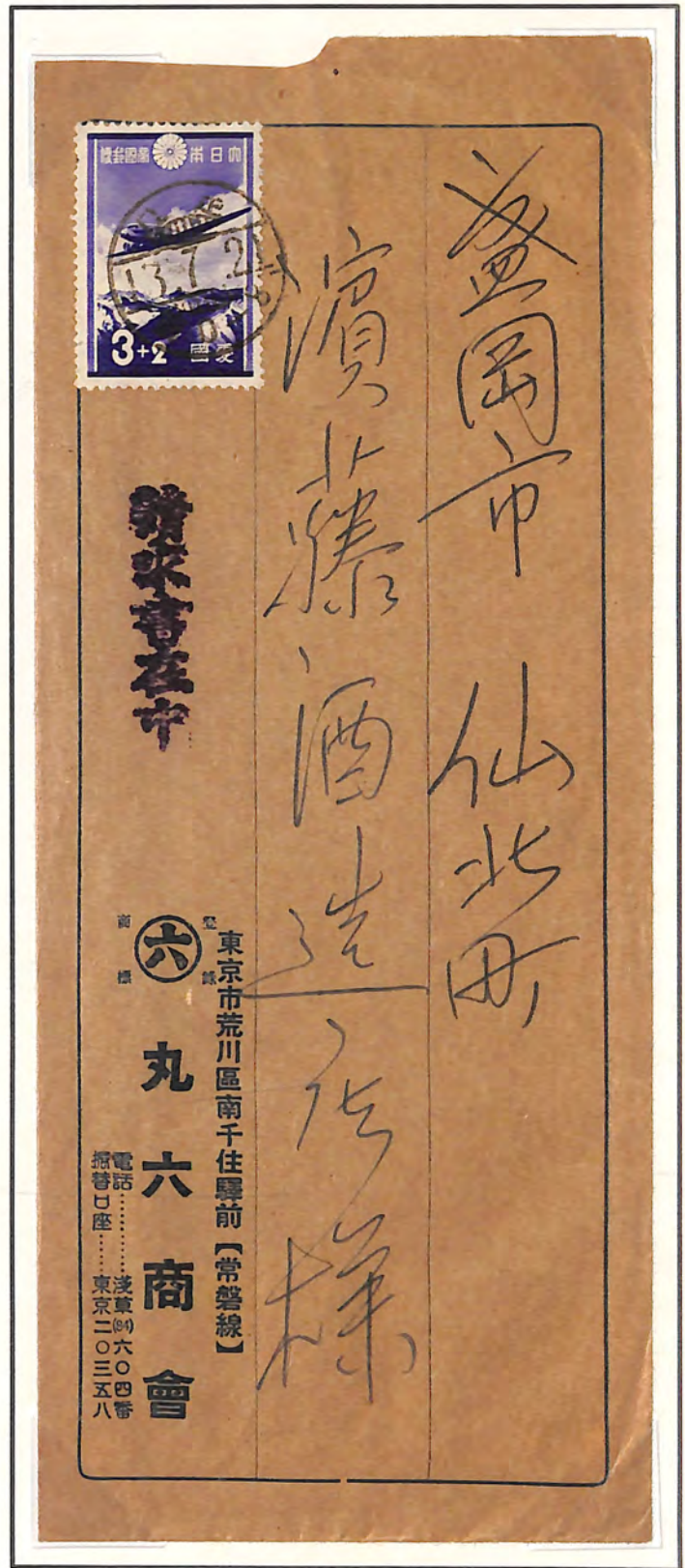
愛国切手 3+2 銭



西宮 12.8.2  
后0-4



YOKOHAMA  
(20). 7. 40 / NIPPON  
(欧文櫛型ゴム印)



第1種印刷書状  
120g3 銭(昭和 13. 5. 1~17. 3. 31)  
足立 13. 7. 21 前0-8

# 愛国切手 4+2 銭



屏東 12. 10. -



京城 12. 6. 28



安東 14. 12. 9



目黒 12. 9. 21



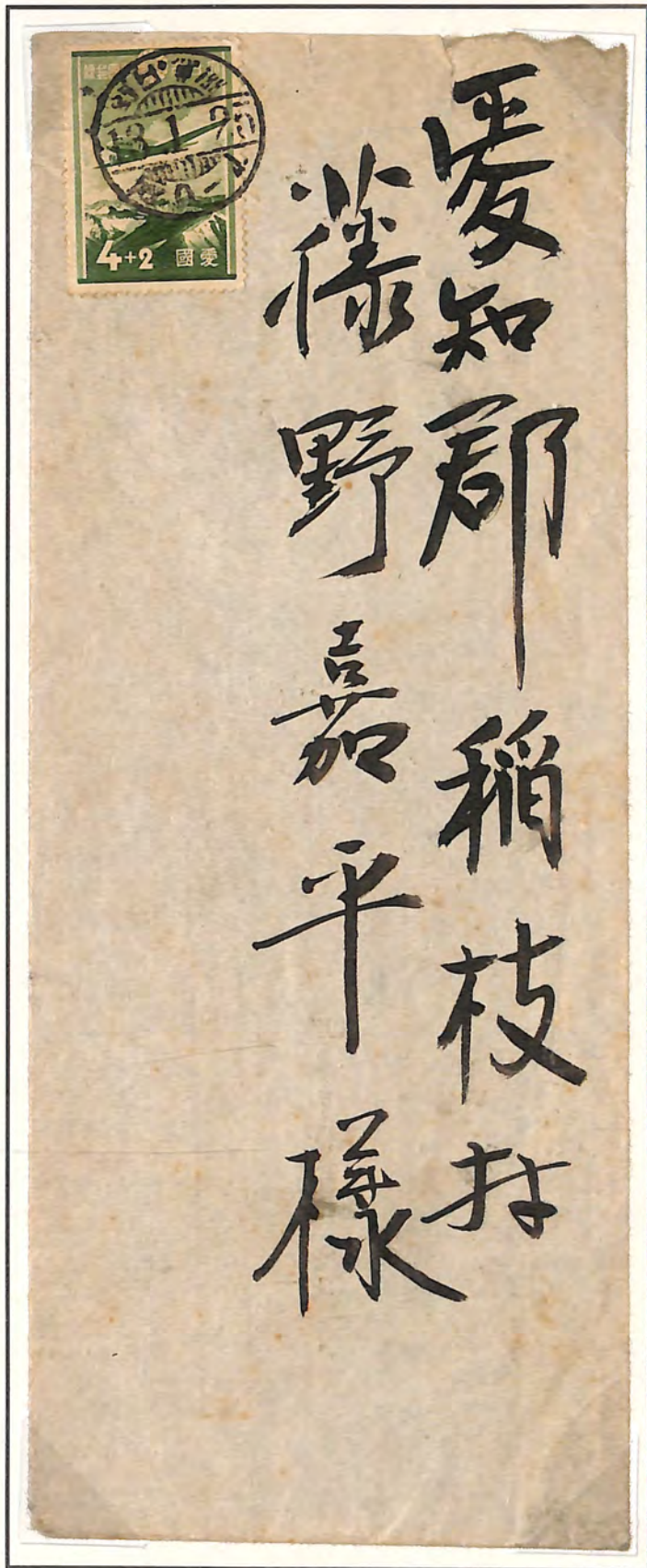
大阪中央 12. 10. 11



品川 12. 6. 15



「航空日本の／建設  
は／愛国切手で」



第1種有封書状 20g まで 4 銭 (昭和 12. 4. 1~17. 3. 31)  
滋賀・日野 13. 1. 25 后 0-4

## 愛国飛行場

愛国切手・はがきによる募金は地方空港の建設等に充てられ、例えば、1934年(昭和9)5月22日、香川県高松に滑走有効路800mの「愛国飛行場」が建設されました。戦後、跡地は競馬場となりましたが、昭和29年に閉場。現在は香川県警本部運転免許センターとして利用されています。



愛国飛行場開場記念



「愛国飛行場開場記念」小型印  
高松 9.5. x (日付なし)

# 神風号の快挙

神風号は三菱重工業製の偵察機で、1937年(昭和12)4月、東京を出発して51時間17分でロンドンに到着しました。これは当時としては驚異的なスピードであり、日本航空史上に輝かしい記録を残しました。

20世紀シリーズ  
第8集



2000年(平成12)  
3月23日発行



余市 12



松山西 12. 3. 27



北海道・広尾  
14. 1. 1 年賀



美浜 01. 2. 5

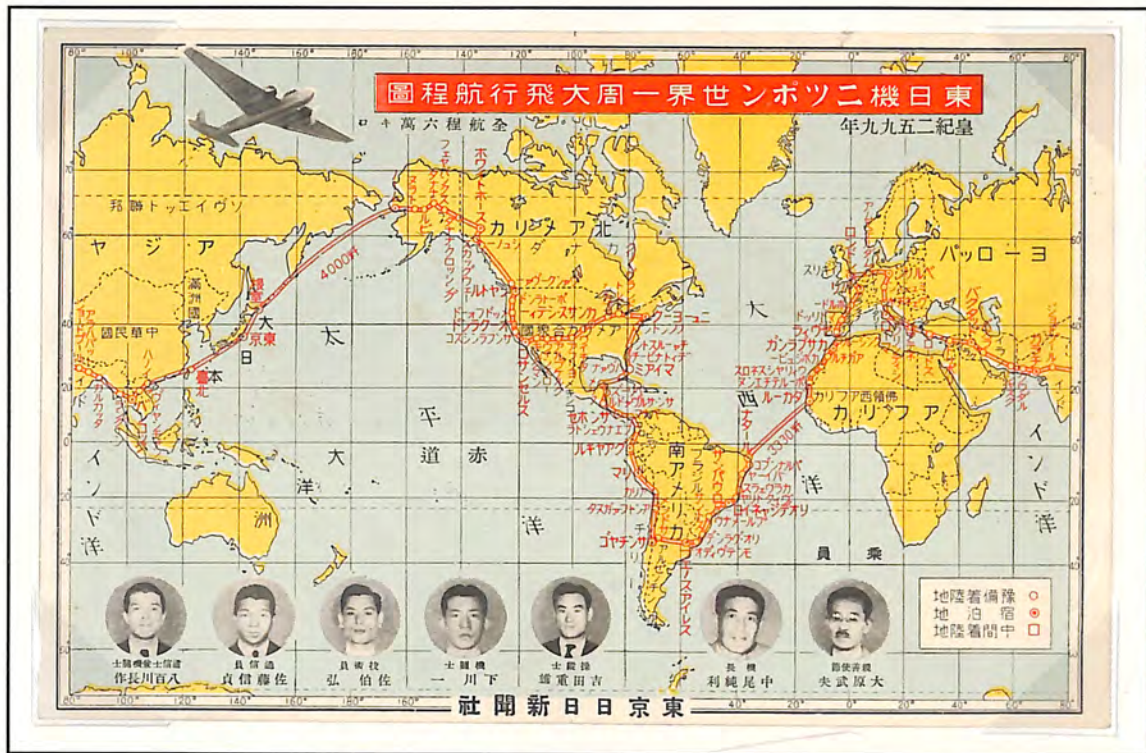


-我孫子東/大阪 13. 5. 12



# ニッポン号の世界一周飛行

ニッポン号は中島航空機製で、1939年(昭和14)8月、東京を出発して総飛行距離52,000 km、飛行時間194時間あまりの世界一周飛行を成し遂げ、日本の航空技術の発達を世界各国にアピールしました。



東京日日新聞社製「世界一周大飛行記念」はがき(航路と乗組員)



福生 12.4.7



保土ヶ谷 12



加古川 14.1.1年賀